

精神科【Stage2】

1. 実習の基本方針（目的・到達目標）

精神疾患に罹患した患者さんと直接接することにより、精神医療への理解を深め、医師としての素養を高める。精神医学的面接および精神疾患への対応や治療の基本を習得する。

到達目標

- a. 医療チームの一員であることを自覚し、患者さんの気持ちに配慮した診察をする。(態度)
- b. 外来診察の陪席に臨み、細かな配慮がなされていることを感じる。(態度)
- c. 作業療法やデイケアにおける精神科リハビリテーションに参加する。(態度)
- d. 精神科で扱う主な薬物とその使用方法を説明できる。(知識)
- e. 特に頻度の高い気分障害と統合失調症の、治療から社会復帰までを説明できる。(知識)
- f. 自殺の予防とその対策方法を説明できる。(知識)
- g. リエゾンや緩和ケアにおける一般病棟での精神科のはたらきを説明できる。(知識)
- h. 症例のプレゼンテーションをし、精神状態を適切な精神医学用語で表現できる。(技能)

2. 実習の方法（内容・行動指針）

学生個々に指導医をつけ、外来・病棟での診療に触れる。外来では、診察の陪席のほか、救急・リエゾン・緩和ケアにおける身体科での診療場面に触れ、作業療法、デイケア(リワーク)における精神科リハビリテーションに参加する。病棟では担当患者を1名受け持ち、毎日の診察を行う。毎週月曜日に行われるカンファレンスでプレゼンテーションを行い、最終週にパワーポイント等を用いて症例発表を行う。

評価は実習中の態度や出席状況、発表内容などで総合的に判断する。

3. 実習上の注意事項

患者さん、スタッフ、学生のプライバシーを守ることは特に注意すべきである。指導医には積極的に質問して有意義な4週間としてほしい。

1) レベルⅠ：指導医の指導・監視の下で実施されるべき

患者さんと話をする

外来陪席、救急・リエゾン・緩和ケアにおける診療場面への参加

作業療法(園芸、音楽療法含む)、デイケア(リワークプログラム)への参加

ハミルトン抑うつ状態評価尺度(HAM-D)や Mini Mental State Examination

(MMSE)、長谷川式簡易知的機能評価尺度(HDS-R)などの尺度による精神症状評価

2) レベルⅡ：指導医の実施の介助・見学が推奨される

修正電気けいれん療法(m-ECT)など

【スケジュールの一例】

※初日の集合時間・集合場所はメールにて連絡する。

曜日	担当教員	午 前	午 後
月	指導医	(初日オリエンテーション) 9:00～外来陪席	病棟実習 15:00～病棟カンファレンス <u>プレゼンテーション</u> 教授回診
火	指導医	9:00～病棟実習 救急・リエゾン	病棟実習 緩和ケアカンファレンス
水	指導医	9:00～デイケア (リワーク)	病棟実習 デイケア(リワーク)
木	指導医	9:00～外来陪席	病棟実習 リエゾンカンファレンス 16:00～抄読会 (4週目： <u>症例報告</u>)
金	指導医	9:00～デイケア (リワーク)	病棟実習 園芸療法 (最終日：総括)

指導医や病棟の状況等に応じ、各曜日の集合時刻の前後、場所の変更をすることがある。